



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 155 号

2016 / 9

瀬戸芸観光契機に再生成功！？ 小豆島オリーブバス上限 300 円

■全国各地で生活交通としてのバス崩壊が目前に迫る中、小豆島では瀬戸内国際芸術祭の観光需要を契機に、路線バスの再編、上限運賃 300 円の採用など再生に向けての取り組みが進んでいる。今回夏会期の小豆島を訪ね、作品群の見学を兼ねて視察した。



■経済のグローバル化に伴い、日本では交通部門でも規制緩和が進み、自由競争どころか全国で30社ほどバス会社が倒産した。補助金漬けのバス業界では経営者・従業員ともにモラルが低下し、利用者目線、社会貢献目線を失った会社が多かった。2000 年ごろ銚子電鉄では経営者が補助金流用で逮捕され、存続の危機に陥ったこともあった。中には井笠バスの様に突然運行停止を発表するところも出てきて、生活交通を守る観点からも交通政策基本法が制定されることになった。しかしバスは地域に根差した生活交通だから、それぞれの地域・市町村できめ細かく取り組むほかはない。だが少子高齢化どころか無子高齢化が進む過疎地では、対策の取りようもなく、ただバス路線が崩壊していくほかはなかった。

■小豆島はかつて寒霞渓観光などで賑わっていたが、観光地としての魅力は薄れ、地元小豆島バスも経営難に陥り、補助金の不正運用から経営者が逮捕されるなど存続の危機に瀕したのは 2010 年の瀬戸芸第 1 回の前だ。瀬戸芸向けアクセスマップと時刻表調査のため農村歌舞伎の中山地区を走る大鐸線に乗ったとき、運転手は「今後どうなるのか不安だ」と言っていた。当時は土庄から中山で折り返すコ



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



ースだったが、瀬戸芸期間には土庄港から中山を經由して、池田港、内海港、福田港を結ぶ瀬戸芸線が新設され、一日5便の生活路線に観光用6便が加わり、回遊性も高まった。

■小豆島オリーブバスは土庄町などが中心になって設立、2010年小豆島バスから路線バス

6路線の運行業務の移管を受けて運行を開始。2013年の第2回瀬戸芸では会場が小豆島全体に拡大され、さらに今回作品数の増加は顕著で、台湾などからの外国人観光客もどんどん押し寄せている。今年3月の芸術祭に向けてのダイヤ改正では1000円以上の場合もあった運賃を全島上限300円、大鐸線は観光需要も取り込んで中山線と改名して池田港まで直通した。今回の視察では一日

次は	安田			
0	1	2	3	4
300	300	300	300	300
5	6	7	8	9
300	300	300	300	300
10	11	12	13	14
250	150	150		
15	16	17	18	19

券1000円を購入したが、以前なら2500円分ほどなので、観光客には好評だ。もちろん芸術祭で出会った地味と住民に話すと「そうよ、前より安くなったから使いやすいわ」との反応。

■実際乗ってみると、バスはきめ細かく病院の軒先まで乗入れ、主要バス停には屋根とベンチが整備され、バス停の表示はグリーン



のマークがわかりやすく、バス停の時刻表の文字は太くて大きい。全国のバス停では各バス停の時刻表が小さい文字のPDFファイル

のまま表示している場合も多い中で、ちゃんと利用者のためにバス停時刻表を作っている。こうした改革が路線網の再編まで進んだことは、先進事例として報告されるだろう。

■瀬戸芸を仕掛けた福武総一郎さんは「現代文明に取り残された所を現代アートで復活させたい」と言っていたが、少なくとも小豆島では一定の効果が出ているようだ。ただし現代アートはまだ有名でないアーティストにチャンスを与えるという側面もあって玉石混交の感もあり、いま押し寄せている台湾などの観光客がリピートするのかと考えれば、将来は消してバラ色ではない。



■とはいうものの、芸術祭の地元ボランティアスタッフの方々が熱心に作品を説明するのを見てみると、芸術祭がおおきな地域再生のきっかけになっているのを感じたし、猛暑の中で出していただいた冷たいお茶の味は忘れられないものであった。地図を見ながら路地の奥まで入っていくと、自然に地図が頭に入ってきて親しみもわき、鑑賞する人々同志では自然に会話が生まれている。都会では失われたものを少しだけ取り戻せた気分になるものだ。今秋はじめて開催される岡山芸術交流も、アートがこうした人のつながりを作るきっかけになれば幸いだ。